

第1回マリンカップin沖縄

実施概要

【目的】

沖縄県の豊かな自然を活用したマリンスポーツを全島で開催することにより、沖縄県でのマリンスポーツ及び観光の振興、また国際的なマリンスポーツの拠点としての確立を目指します。

【内容】

- ・主催：財団法人社会スポーツセンター、日本マリンカップ委員会
- ・主管：沖縄県マリンカップ実行委員会
- ・後援：文部科学省、観光庁、第十一管区海上保安本部、環境省那覇自然環境事務所、沖縄県、豊見城市、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本体育協会、財団法人日本水泳連盟、公益財団法人日本バレーボール協会、公益社団法人日本カヌー連盟、独立行政法人海洋研究開発機構国際海洋環境情報センター、社団法人日本旅行業協会、財団法人沖縄県体育協会、財団法人沖縄観光コンベンションビューロー、財団法人沖縄マリンレジャーセーフティービューロー、社団法人沖縄県レンタカー協会、琉球新報社、沖縄タイムス社、琉球放送株式会社、スポーツツーリズム沖縄実行委員会
- ・実施日程：
 - 本大会：2011年10月29日(土)-30日(日)、豊崎美らSUNビーチ（沖縄県豊見城市）
 - 前夜祭：10月28日（金）、豊崎美らSUNビーチ（沖縄県豊見城市）
 - シンポジウム：10月28日（金）
- ・実施概要：

	計	期間内訳		参加地域内訳		
		メインイベント (10/28-30)	期間内	県内	県外	海外
<正式種目(6種目)>						
① オープンウォータースイミング(本大会)	170名	170名		95名	75名	名
② ビーチサッカー(本大会)	266名	266名		202名	41名	23名
③ フリッパーレース(本大会)	98名	98名		52名	46名	名
④ ビーチバレー(本大会)	48名	48名		32名	16名	名
⑤ シーカヤックレース(本大会)	82名	82名		64名	9名	9名
⑥ ビーチマレットゴルフ(本大会)	72名	72名		6名	66名	名
<デモンストレーション種目(4種目)>						
⑦ ライフセービング(本大会)	88名	88名		78名	10名	名
⑧ サバニ体験(本大会)	10名	10名		名	10名	名
⑨ サバニレース(本大会)	89名	89名		89名	名	名
⑩ ビーチコーミングアートコンテスト(本大会)	10名	10名		名	10名	名
<体験型活動(6種目)>						
⑪ SCUBAダイビング(本大会および期間内) (環境保全活動及びナビゲーション)	880名	425名	455名	名	880名	名
⑫ バリアフリーダイビング(6/23-26)	180名		180名	40名	140名	名
⑬ スノーケリング教室(本大会および期間内)	77名	37名	40名	60名	17名	名
⑭ カヌー体験会(本大会)	79名	79名		35名	44名	名
⑮ ビーチコーミングアート教室(本大会)	46名	46名		20名	26名	名
⑯ 沖縄文化芸能および食文化(本大会)	300名	300名		106名	190名	4名
計	2495名	1820名	675名	879名	1580名	36名
(割合)	100%	73%	27%	35%	63%	1%

実施報告



事業結果

第1回マリンカップ in 沖縄は16種目にて開催することができ、プレ大会8種目と比較すると種目数を倍に増やすことができました。また、参加者数はプレ大会849名から、第1回大会2,495名と約3倍増となりました。

開催のねらいとしておりましたマリンスポーツにおける高い潜在需要の顕在化に関しては、16種目を同じ会場で行なったこと、当日申込で参加できる体験会を多く開催したこと等により、参加者が複数の種目に選手として参加したり、体験会に参加できたり、観戦したりすることが出来ました。“興味はあったけれども、機会が無くて見たり体験したりしたのは今回がはじめて、楽しかった。”との声が多く聞かれました。多くの参加者から「来年も参加したい。別の種目も体験してみたい。他のフィールドでも活動してみたい。また、沖縄に来たい。」との声がありました。

また、国際性という観点からは、当初計画しておりました台湾、ベトナム、スリランカにとどまらず、米国、英国等西洋からの参加もございました。子どもも大人も広く国際交流が行われ、観戦者の中に外国の方の姿が多く見られました。

さらに、運営面におきましては、主管団体間での交流も促進された結果、今後、複数種目によるコラボレーションが期待され、加えて、オープンウォータースイミングが沖縄県において初めて開催される等、沖縄県をアジアにおけるマリンスポーツのメッカとしてPRすることが出来ました。

これらの結果により、マリンスポーツの多種目同時開催という我が国のみならず、世界でも先進的な取り組みを沖縄県から発することができ、マリンスポーツの“メッカ”としての沖縄をアピールすることができました。

事業総括（課題と今後の展望）

今後の課題といたしまして、イベントの質という観点からは、マリンカップを基盤とした、さらなるオプションツアー等の企画を充実させていくと共に、外国の方に向けてさらにPRし、参加しやすい体制の確立のために、外国語によるホームページの作成、通訳ボランティアの育成について検討を進めております。また、種目間のタイムスケジュールを調整したり、内容を再検討したりすることにより、複数種目に参加を希望される方が参加しやすいようにさらに配慮して参りたいと存じます。

さらに、第2回以降の発展的な課題といたしましては、現在メイン会場を1会場にて開催しておりますが、収容人数と種目を検討した上で、さらに沖縄県各地で行えるよう検討を進めて参りたいと存じます。

運営面につきましては、マリンボランティアの育成を進め、さらに円滑で安全な運営体制の確立を行なって参ります。

これら課題や上記結果を踏まえ、第2回大会においては、さらに多くの種目、多くの国からの参加者を増やしていけるよう努力して参ります。既に、新規種目として複数種目よりオファーが届いており、具体的には、種目数20種目、参加人数5,000名を目標として準備を進めて参ります。